

小児慢性腎疾患児の教育 普通小・中学校在籍児について

永 峯 博 齋 藤 美 磨

要約：小児慢性疾患児の大半が在学している普通小中学校について、調査し、学校検尿の方法、ホロー、体育的行事への参加度が地区に依って異なり、体育の参加や評価についても個々に苦心している事がうかがわれた。

見出し語：腎疾患、学校教育

第1章 緒言

小児慢性腎疾患児の殆どは普通小・中学校に在籍しながら通院療養しているものと考えられる。一方学校検尿の制度が普及し、その検査陽性者に対する指導が大きな問題になっている。我々は以前から小児慢性腎疾患児の教育について調査・研究を続けて来た。今回は普通小・中学校における現状を調査したので報告する。

第2章 調査対象及び方法

専門医療機関、検尿制度、地域差などを考慮し、東京都某区A、大阪府某市B、温暖地方某地区C、寒冷地方某地区Dを選び、ABについては発送・回収とも教育委員会を通じて悉皆調査を、CDについては各々の地区に於いて地域差がでないよう全体的な傾向が見られるように配慮して学校を教育委員会に抽出してもらい、直接アンケートを発送・回収した。ただこの際児童・生徒数を考え小規模校は除外した。

AB両地区については、アンケートでは不明確な場合訪問調査も行なった。

各地域における学校検尿の実施方法はことなり、CD地区においてはその地区内でも方法が異なっていた。

第3章 調査結果

1 調査対象数

地域別調査対象校数及び対象児童・生徒数は第1表のごとくで、

第1表 調査対象

地域	調査校数	回答数	回答校児童・生徒数
A地区	34	34	19048
B地区	60	51	40786
C地区	143	105	81081
D地区	152	71	25966
計	389	261	166881

総数389校にアンケートを発送し、261校から回答があった。回収率は67.1%であった。AB両地区のみをみると90.4%の回答がよせ

国立特殊教育総合研究所

られた。回答校の全児童・生徒数は166,881人である。

2 学校検尿有所見者数

学校検尿有所見者を神奈川県的方式に従い、慢性腎炎、ネフローゼなどの腎疾患群、遊走腎、尿路感染などの泌尿器系疾患群と血尿、蛋白尿などの要経過観察群に分けてみると第2表のごとくで、A B地区で明かに慢性腎炎、要経過観察（血尿）の占める割合が逆転していた。

第2表 尿所見陽性者の内訳（人数）

所見内容	A地区	B地区	C地区	D地区	計
腎疾患	4	10	14	9	37
慢性腎炎	14	84	39	6	143
各種腎炎	5	14	7	2	38
小計	23	108	60	17	2108
泌尿器疾患	5	2	2	1	10
血尿	44	26	42	17	129
蛋白尿	10	0	5	1	16
小計	54	26	47	18	146
合計	82	130	108	36	356

又、これらの尿有所見者の学校別分布を見ると、第3表のごとくで、殆どの学校で尿所見をもった児童・生徒が半数以上在籍しており、特にA B地区のごとき都会の学校においては、今後その適切な対応が学校保健上大きな問題となることは明かである。

第3表 地区別・学校別検尿結果

学校	尿所見者なし（学校総数に対する%）	経過観察	腎疾患児	両者あり	合計
A地区小学校	6（27.3%）	10	3	4	22
中学校	0（0.0%）	6	3	3	12
B地区小学校	8（21.1%）	3	16	11	38
中学校	0（0.0%）	0	5	7	12
C地区小学校	34（44.1%）	8	18	17	77
中学校	13（48.1%）	2	6	6	27
D地区小学校	35（70.0%）	4	8	3	50
中学校	16（70.0%）	0	4	3	23
合計	112（42.7%）	33	63	54	262

C D地区においてその率が低いのは、学校検尿の方式の差（学校検尿に対する関心、前年有所見者を除外するか否か、一次検診後の検診・受診体制、検診の方法、など）が関係している

ものとも推測される。

4 管理指導表の使用

このように多くの学校に尿所見陽性者が在籍している。これらの児童・生徒は学校で運動面でのどのような処遇を受けているのであろうか。

一番のより所と思われる学校保健会の管理指導表が学校でどの位使われているかを見てみると、第4表のごとく、予想に反して使用していないと答えた学校が多く、特に中学校においてあまり重視されていないように思われた。

第4表 管理指導表の使用

地域	回答数	使用	使用せず
A地区小学校	22	15	2
A地区中学校	12	7	4
B地区小学校	38	5	23
B地区中学校	11	3	11
C地区小学校	68	14	27
C地区中学校	27	7	5
D地区小学校	48	0	13
D地区中学校	23	1	5

5 欠席日数

このような学校側の認識の中で、児童・生徒が通院、療養を行なっているとしたならば、その欠席日数も多くなり学業に支障を来すのではないかと考え調査を行なった。前の学期（登校日を必要とする日、約85日）における欠席日数が10日を越えている者の数をみみると、第5表のごとくでそれほど多くはなかった。

又、腎疾患児の中だけをみても著しく多いとはいえないようであった。

第5表 長期欠席者数

地区	児童数	地区	生徒数
A地区小学校	2（47）	A地区中学校	2（35）
B地区小学校	10（93）	B地区中学校	4（65）
C地区小学校	11（85）	C地区中学校	2（36）
D地区小学校	3（10）	D地区中学校	0（10）

（ ）内はその地区における腎疾患児数

これより見ると先年腎疾患児の親を対象に行なった調査と比較して、欠席者の頻度が少なく、近年の治療法の進歩などによって、学校を休むことが少なくてすむようになったものと思われる。

6 学校給食

給食に対する制限は、A地区では全く見られなかったが、B地区では28人17.7%に、C地区では9人7.4%に、D地区では1人2.7%認められた。この38人の殆どは慢性腎炎で約75%を占めていた。

7 体育参加の指示者

体育的行事に参加するか否かを決める時誰が指示しているかを見てみると、当然医師の指示が最も多いが、地域によって多少の差がでている。即ち、A地区では殆ど全員が医師の指示によっているのに反しB地区では親の意向がほぼ同数にはいつてくる。C地区でも30%に親の意向が加わっている。更にBCD地区では本人の意志が尊重されているようすが小教ではあるがみとめられた。教師単独での判断は極く稀なようであった。

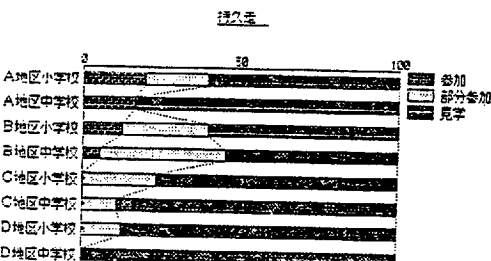
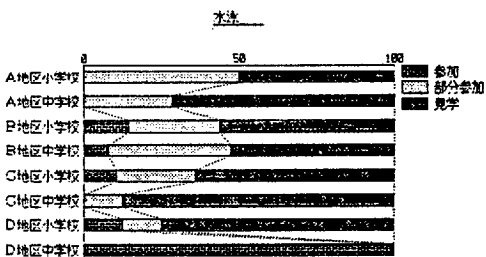
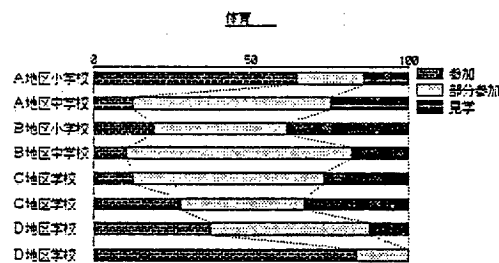
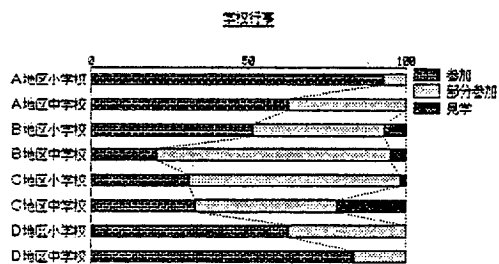
8 体育的行事への参加状況

学校行事、教科体育、水泳、競走・マラソンなど身体的活動を主とする学校行事に、検尿有所見者がどの程度参加しているかを見てみると第1,2,3,4図のごとくで、学校行事には案外参加しており、教科体育も比較的参加者が多いようであった。

しかし水泳、マラソンは厳しく制限されているようであった。しかしその制限は地域により差があるようにも思われた。

9 教科体育の評価

体育の評価は児童・生徒にとって最も関心のあるところであるとともに、欠席や実技不参加の場合どの様に評価するかは、患者にとっても、



家庭にとっても、教師側にとっても、最も悩み、苦勞するところである。小学校においては、一般的な評価はせず、評価はできずとして、通信簿には斜線をひく、空欄にするなどという場合

や、文章で記入し所謂五段階評価での評価点を記入しないなどに行っている学校もあった。しかし、中学校になると高等学校受験のこともあり、何とか参加部分や見学態度、レポートや保健などに対する筆記試験評価しようといろいろな苦心を学校ごとに試みている苦心の跡がうかがえた。

第4章 要約

1 学校検尿システムが地方によって異なり、そのなかでもさらに教育行政の下部組織である教育事務所ごとに異なっている。

2 このような体制の違いや地域の状況によって検査結果や事後措置にはばらつきが認められた。

3 管理指導票の利用の程度は地域ごとに違いがあった。心臓疾患の場合に比しその使用頻度は少ないようであった。

4 給食制限に地域差がみられた。

5 体育の参加を許可する人としては、医師が当然多かったが、地域により親の意向や、本人の意志が入ってくるようであった。

6 運動への参加状況では、マラソンなど競走が最も制限され、次いで水泳が制限されていた。

学校行事や教科体育には、参加している者が多いようであった。

7 体育の評価については、実技に参加できない場合でも、何とか評価しようとして試みている。特に中学校の場合、高校進学との関係もあり、学校側の苦心の跡がうかがえた。

8 体育への参加の程度をアンケートの一人一人について、病名・発症時期・学年・欠席日数などを参考に、実際の参加状況と比較し適切な運動規制がおこなわれているか判定しようとして試みたが、個人の病状をこれだけのデータから評価することは難しいうえ、規制表をみてもその時間の運動内容として何処に該当するかを判定し難く、実際に適切な制限か否かを評価することは出来なかった。このことは現場の教師が

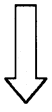
規制度の指示をみて判断する場合にも感じている難しさと相い通ずるところがあるように思われた。

参考文献

1 永峯 博 小児慢性腎疾患児の教育上の諸問題 厚生省心身障害研究 小児慢性腎疾患の予防管理・治療・に関する研究 昭和61年 研究報告書

2 永峯 博 小児慢性腎疾患児の教育上の諸問題 厚生省心身障害研究 小児慢性腎疾患の予防管理・治療・に関する研究 昭和62年 研究報告書

3 永峯 博、他 小児慢性腎疾患児の学校教育調査報告 昭和63年 国立特殊教育総合研究所



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児慢性疾患児の大半が在学している普通小中学校について、調査し、学校検尿の方法、ホロー、体育的行事への参加度が地区によって異なり、体育の参加や評価についても個々に苦心している事がうかがわれた。